

蔵出しお宝ニュース

— 第 45 号 —

三原市歴史民俗資料館では、所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。本紙では、資料館内で長らく眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と行事の案内・紹介などを随時行って参ります。

こうあんまる 海の女王 興安丸展を開催

戦前から戦後にかけて、引き揚げ船などの役割を果たした客船「興安丸」ゆかりの資料が平成 26 年 11 月 19 日、三原市に寄贈されました。資料館では、寄贈された時計・船名板・^{おの}斧・ハンマー・ランプ・フィルム「海の女王 興安丸」の 6 点と、資料館所蔵の写真などを活用して平成 26 年 12 月 17 日（水）から平成 27 年 1 月 18 日（日）まで「海の女王 興安丸展」を開催いたします。



興安丸は約 7000 トン、最高速力 23 ノット、全幅約 17 メートルで昭和 11（1936）年に起工しました。戦後は引き揚げ船として活躍し、中国大陸やソ連からの帰国者、シベリア抑留者などの帰国第一船として多くの人を京都府舞鶴市などへ運びました。昭和 45（1970）年に三原市木原町で解体されました。

こうした縁で、現在でも三原港で興安丸のいかり錨を見ることができます。

展示資料のうち、フィルム「海の女王 興安丸」は劣化が激しく、すぐに上映することは難しいですが、昭和 35（1960）年 1 月に当時興安丸を所有していた東洋郵船が企画をし、毎日映画社が製作したもので、大変貴重な資料といえます。

今回の企画展を通して、興安丸の功績を広く紹介し、保存継承を図りたいと思います。



（左上）興安丸の錨

（左下）寄贈された資料の一部

歴代三原城主紹介 小早川隆景 其の1

平成 29 年に三原城が築かれて 450 年を向かえるにあたり、諸団体によって準備が進められています。本紙では、450 年祭に先駆けて歴代三原城主の事績や逸話などについて紹介していききたいと思います。

小早川隆景 略史

小早川隆景は天文 2（1533）年、毛利元就の三男に生まれ、天文 13（1544）年、竹原小早川家の養子に入りました。天文 19（1550）年には沼田小早川家を継ぎ、小早川家を 1 つにまとめました。本郷の新高山城を中心に、兄の吉川元春と共に父元就を助けて毛利氏の中国統一を成就させました。

天正 13（1585）年の四国攻めの功績で伊予 350,000 石を与えられました。豊臣政権は大名統制策として伊予一国を与えて独立大名として扱いましたが、隆景側は一度毛利家に与えられた伊予を改めて受領する形で毛利家の一武将としての体裁を保ちました。

天正 14（1586）年、九州の役にも参加し、天正 15（1587）年に秀吉から筑前・筑後・肥前 1 郡半という、九州で最も重要な地域が広範囲に渡って与えられ、在国するように命じられました。



天正 19（1591）年 3 月 13 日付で検地の結果によって正式に隆景に与えられた知行目録によると、筑前 1 国と筑後 2 郡・肥前 2 郡を合わせて 377,300 石を与えられました。また、隆景は同時に毛利家の一門として、毛利家からも 66,000 石を与えられました。この中に三原も含まれていません。

文禄 3（1594）年には豊臣氏から秀吉の義理の甥・小早川秀秋を養子に迎え、翌年の文禄 4（1595）年には、家督を秀秋に譲って隠居し、家臣団と共に三原に移りました。その際、秀吉から筑前に 50,150 石という破格の隠居料を拝領しました。この年、従三位権中納言に任ぜられました。

慶長 2（1597）年 6 月 12 日急逝。享年 65。死因は卒中といわれています。

太宰府天満宮（福岡県）の本殿は、天正 19（1591）年小早川隆景の再建で、桃山時代の華麗で豪放な建築様式の特徴がよく出ており、国指定重要文化財です。

（左上）隆景広場の小早川隆景像 矢形勇 作

おき どこ しゅん じゅう
置 床 春 秋



掛物 佛通寺 管長 藤井虎山 筆

日々是好日

花入 唐銅鶴首 花 季のもの

発行 平成 26（2014）年 12 月 16 日
〒723-0015 三原市円一町二丁目 3 番 2 号
三原市歴史民俗資料館
TEL 0848-62-5595

※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用なされないようお願い申し上げます。